



極寒にさらしてわざと凍傷にする、ペスト菌を感染させる、銃創を作って治療を試す。旧陸軍731部隊を中心に中国人捕虜などに行われた生体実験を知ると、人間の怖さと弱さを痛感する。

命を救うべき医師たちを鬼に変えたのは国防の使命感なのか、他民族への蔑視なのか、科学的探求心なのか。罪の意識はなかったのだろうか。

中心人物だった石井四郎・軍医中將はデータ提供と引き換えに米軍が免責した。部隊の幹部には戦後、医学部長や医大の学長に出世した人物も多い。政府や医学界による総括はなされていない。

ナチスドイツで人体実験や障害者の大量殺害を主導した医師たちはニュ

今日のトピックス

戦争と医の倫理

ルンベルクで裁かれた。それは戦勝国による裁判だったが、ベルリンの医師会は1980年代、自分たちで検証と反省を行い、「人間の価値」(日本語版、風行社)という本にして刊行した。

その姿勢にならおうという動きが日本でも出てきた。医師や研究者らが昨年9月に設立した『戦争と医の倫理』の検証を進める会」は、来年4月に東京で開かれる日本医学会総会で正式プログラムの一つに取り上げるよう要請している。

加害の過去を掘り返すのは苦しい。だが医師がどんな状況でも人の命、患者の利益を最優先して踏ん張れるかというのは現在と未来の課題でもある。ゆるぎない医の倫理を確立するため、歴史の暗部を直視したい。

編集委員 原昌平